



長濟鑑入冊月

終

大崎文庫

服部文庫

117

1553

3



一 吉利支丹所改所之便忌所停止南蠻之知家等
宗門之人所進放之事

二 耶宗門之人將南蠻之種子所進放之事

三 日市之度如造之船之具國之為高貴渡海之事

附停止之事

一 度如渡海長崎津所極其水改之事

二 南蠻人所宿所停止之事

附南蠻所渡海所別禁之事

三 阿蒙院人校年之長崎所之便之事

附急之度阿蒙院程之便鳴記所進放之事

中七 野母遠身者長崎夜火之初着入く度

附小沢元番事

中八 西泊元町番所始く事

中九 肥前嶋系支所長崎に法船始く度

中十 九島支所相極進来り船始く事

中十一 長崎支所始来り方同く事

中十二 長崎支所始来り事

中一

吉利支丹所改上侵悪船所停止南濱く事
邪宗つて人河進放く事

一 南濱高貴源く事
日中渡海く事
方々の津々金々

手立の事
元船えき
長崎に渡来く事

吉利支丹寺以建居所と云く事
彼等之者
河内版く邪宗つて人河進放く事

還自由く吉利支丹く事
小津細く事
十八五年為上侵大久保相持事

邪宗宗つて改修千九百六月
所に侵山口縣
長崎に侵山口縣

而吉利支丹寺近國、大谷、平作、石、燒、
捨、之、地、と、稱、上、地、と、稱、河、中、の、地、と、稱、水、邊、の、
吉利支丹相改所、玉、之、河、之、長、河、に、捕、
伴、天、連、市、に、捕、來、北、東、門、に、此、中、百、金、人、を、
多、く、若、道、月、廣、花、源、と、云、人、を、武、家、の、道、為、大、名、
邪、家、の、人、を、平、立、人、を、傳、在、因、人、を、成、長、河、に、渡、り、伴、
天、連、口、前、天、川、に、渡、り、源、に、伴、中、に、夜、中、に、
之、が、家、人、と、思、知、る、事、渡、事、に、停、止、し、
旁、に、一、條、小、船、を、上、渡、河、に、伴、中、に、事、行、長、谷、
川、に、在、り、

切支丹寺近國、大谷、平作、石、燒、捨、之、地、

為、屋、敷、二ヶ寺

稻、湯、傳、法、燒、捨

春、德、寺、一ヶ寺

秋、指、所、一ヶ寺

寺、以、志、摩、子、燒、捨

勝、山、町、一ヶ寺

桐、屋、町、一ヶ寺

十、管、寺、一ヶ寺

王、馬、在、所、作、燒、捨

於是不惜者、時東通泉山、主行五於人或瘡人
 種也湯、金熱湯之汲急市又中湯毒
 其品生骨肉離散、（？）西法、功官約い
 ろく、（？）令紀明、（？）情定、水
 六己年河内、為代竹巾、安女正江抄り入
 邪多し改相制し

一、以伴天連伴廣了伯了順と云者、けり、此の
形法と將吉利支丹の法一切不異なりと他の玉と
奈桑謀の由より神子白胸、吉利支丹情、若く事
不立、故に父と為、然るも自其親、二人は、て、遠

愛之國愛之海
 物也故之天衣布之
 將書物之具書
 估仲店不伯
 八南寧之書不順
 日印之書之

一寛文十二年長崎より南蠻人種子島意治
侯或八拾七人天川口海濱に停泊し行柳を飛渡
馬場之帝を石種子町よりと川離れ其地を
長崎より強動た元侯大村領より作り
大村一就海軍國令奉行又大坂の邦家より
士給人より指就是より天川口同年に海濱

舟二

日本より船が送る。其の異國より高き
臺灣海軍に附停止する。

一首日本より異國より海軍に送る。

元禄元年より古公河東より東より海軍に送る。

廣島 東埔寮 東京 六昆 大泥

多沙 呂宋 天川 暹羅より海軍

所

河紋免主役 権現様 台徳院様

河東より金頂戴寛永二年三月拾二年程矣

國より海軍に大利と 船より寛永二年亥

手より國より海軍に送る。河東より海軍に送る。

花彈より仙石より和子

日印より異國より海軍に送る。

末次平次 二艘

取手海軍 一艘

荒木海軍 一艘

赤金海軍 一艘

赤金海軍 一艘

京都 角より海軍 一艘

伏見 屋 一艘

一樓

長崎

石若河停止前迄大ノ水渡河邊ノ堤止
河床平頂敷ニ付テハ水ノ敷
渡河ノ水敷年ノ一石門ノ水ノ一

中曰

石若河渡河長清ノ津河極英水改ノ事

一 首尾形ノ何國ノ浦本志ノ高貴者ノ
更ノ津條ノ九筋ノ薩摩ノ阿久根筋前
持多量後ノ月肥市ノ五筋年ノ長清ノ
本ノ高貴者ノ水改ノ永十二二年他中耳志

河停止成長清ノ津河可ノ高貴他國ノ浦
より長清ノ津河水改ノ水子年ノ
長清ノ津河極英水改ノ事
文記

一 首尾形ノ何國ノ浦本志ノ高貴者ノ
更ノ津條ノ九筋ノ薩摩ノ阿久根筋前
持多量後ノ月肥市ノ五筋年ノ長清ノ
本ノ高貴者ノ水改ノ永十二二年他中耳志

一 事し不諸更に成るに成候様にも相成候
而も亦任但事候も少事し事たりと申
下付事

所前如 代浪取成立りてと云候事

一 普國如成に九月廿四日迄に達する候も
切但事候に申すにりてと云候事
下付事

一 普國如事候に所前如成に成候様にも
又之を成候に長済事候に候可と云候
早不事候に成候に候可と云候
下付事

一 平元如事候に成候様にも成候様にも
止し事

以上

加賀守

豊後守

伊豆守

讃岐守

大炊頭

寛永十三年八月十九日

柳原源三郎
馬場三郎

阿葉院人長平戸長崎より新河度へ
附島より阿葉院種へ使囃此日所退放へ更

一 寛永長江 寛永の長江の事 阿葉院人
肥前月平戸清浦より高きより利と
町屋那細い家居と造り自由に寛永
十八年松平恒重より清浦に居る戸
より互寄阿葉院居る身よりと不相應と要
害よりと在悉破却り身より破却と要
六年高直井と飛後島よりと改長崎

新長崎よりと忍げも阿葉院種より平戸
相濟を身より平戸より新被地より阿葉院
種子大石疎忠よりとのよりと使囃此日所
後阿葉院人平戸清浦に伏寛永十八年
所停止し成し年よりと相親いを行つ物
之系在島松極平より

中七

野母遠見番長崎焼火山神更へ更
附小島戸番より事

一 寛永十八年より新河度飛渡り馬場より在

支那の帝初年倭皇より二月、海東功陳、
 長崎の古名、要害巡見、其異國、
 船入海、列藩、即し見届令渡、
 急、帝、燒火、と立、江戸、と修、
 瑞石、と立、逆、必、味、野、母、
 渡、の、水、遠、身、人、妻、と、
 長崎、其、行、市、花、船、と、
 野、母、柳、修、者、幸、快、志、
 何、其、即、以、人、宛、
 放、火、と、立、極、
 番、和、と、立、建、
 長、崎、
 三

个村个鼻大武人宛着而之浩寬以中又實之
 萬治元年年之武拾一之回鼻大支而着之
 我知系百世因之天切之所着而之
 末次年之許之平着而之
 所教之萬治二年之遠身之番之拾人
 之人而武人技持之七人而主拾人
 之人而武人技持之七人而主拾人
 之人而武人技持之七人而主拾人
 之人而武人技持之七人而主拾人

一
元祿元年野井遠舟書於其異國如左
近江川德村如市邊渡舟身之了言元祿

由小南寺遠見番館建在番人王宅之
東行州治南有官廳及支那之官吏人
拾人小南寺人王宅如市校持刀布通

中八

西泊戶所番館之事

一寬永十八年正月馬場二番在松樹平在
支那之番館西泊戶所支那要害之番館
右此作此作支那之本館之建以相勸
本館之建以相勸本館之建以相勸

相勸之番上名每年正月代小南寺
初年急成事在番館之經信之西保人年
支那人番館之經信之西保人年

一西泊番館之經信之西保人年
但坪數九之八十七拾坪

大村領

一戶所番館之經信之西保人年
百九拾間

但坪數九之八十七拾坪

二 新舊頭號炮大只

三 新舊石火火玉藥藥

四 新舊足徑只

五 新舊足徑只

一 西海關新製炮

二 新舊表裏木戶番

一 新遠見番

二 新水主

一 新石火火玉藥藥小徑只

一 西海關石火火炮

武拾武挺

但玉重之黃八百月第中一之新二之武月之

二 新舊頭號炮大只

三 新舊石火火玉藥藥

四 新舊足徑只

二 新舊足徑只

二 新舊表裏木戶番

一 新石火火玉藥藥小徑只

一 新水主

一 戶所多之災失數

拾七挺

但此等之書其書之月日年一之既二之月日年

一 壯年壯者多而泊戶町之番人時人較數多而後

但百月代人數大身小身より増減あり

番人

銃炮大銃走人

中走走人

馬身取走人

大組走人

銃炮取走人

船數二拾之艘

早船又艘
荷船拾二艘

即之 水艘

一 船泊津浦多而泊戸町之番人較津平津浦多

而大津津浦多而領知在何所 人人較集事

時之取之津浦多而領知在何所 人人較集事

取之入百月代

石火火之場也

長崎順

一番

大村順

武番

わくし崎

長崎順

二番

大村順

三番

白崎

肥前順

八番

肥前順

六番

長刀岩

肥前順

七番

もとの尾

石七ヶ石石火共長明磨元石松浦肥前守
筆

中丸

肥後海東支那長崎日語船始く夏

一寛永十六年三月五日行馬場二席在安大洲内家集

支那長崎海所用船細川頼中より取り

押渡りし船中乗客あり長崎日早船主可張直

由船中係る客子乗番船より取り取り月半

より細川頼中より取り取り取り取り取り

甲斐より取り取り取り取り取り取り取り

八月廿日頼中より取り取り取り取り取り

頼中より取り取り取り取り取り取り取り

紫雲集

一 細沙 平 古 漢 形 數

早 好 羅 挺 立
口 嘉 挺 立
去 被

一 杉 平 重 殿 預 落

早 好 口 拾 挺 立
去 被

才 十

九 筋 之 國 而 相 極 漢 來 之 形 始 事